

エッセイ

1970 MAY.

NO. 12

▶ 今年度企画

▶ 読書会『夏への扉』

▶ 会員名簿

O・B 短信・春期ハイキング

明治大学SF研究会

SF研一九七二年

——庄司修一郎——

SF研も創立以来四年目を迎え、その活動内容もますます充実してきた（いづねの如く）。今年度は十一名という大量の新入生を迎え、総員二十八名（これはそのまま卒業会員数である）、一応クラブらしくなってきたわけだ。

外觀が整えば内容はただこればかりでなく、低いか高いかという言葉はあられもない問題なのだ。質的に高い、低いとかいう言葉はあられもない。何が、何をもってその基準とするか僕自身わからない。たぶんトナクという感じで漠然と分けたりしているのだが、そういう「感じ」で区別する性質のものではないだろう。ファンジンについても高度性の程度が低いのと評価があるようにわからない。が、質的に高度ということは、SFほどのくらしい読んだかとか、SFについていっぴののまいたふうなことをいえるとかいうことではないはずだ。——ちやんと私見みたいなのを口走れば、それはSFに対する姿勢の問題ではなからうか。

質的向上という内容も意味もわからぬまま唐突に言うとSF研の活動内容は質的に高度なものを目指す（ことに甘んじている）のである。いささか乱暴な話だが、春の合宿で決めた今年の活動内容、企画を考えると、どうも単なるアソビ事ではなさそうであるし、古い話だが一昨年の臨時総会においても、当会は「研究会的」性格を持たせると決ま

っているのだ。——企画内容については順次述べて行くが少くとも、質的向上への模索みたいな姿勢が貫かれて

いる。ともあれ、当会はSFのクラブなのだから、SFをある程度は知ってこれればいけねばこまるわけだ。和泉地区の新入生は皆長く読んでいるようだが、生田地区の新入生の中にはまだ長く知らない会員がいるようである。目下、代表的SF小説を選定して読んでもらっているが早く追いついてほしいものである。

又、今年度は二度目の卒業生を送り出し、O・Bも複数にはったのでO・B会山の結成についても考えねばならぬ。既にそういう問い合わせが北島先輩から届いている。川瀬さん、北島さん、藤本さん、飯田さん、櫻川さん達と連絡をとった上で十七日（第三月曜）の例会で検討したいと考える。

更に他大学のSF研、及びSFファングループとのおつきあいにしても考えねばならぬ。当、明治大学SF研宛会もなぜか有名になり、『明大SF研』に答せようという手紙がきたり、駿台祭にはそのテの連中が押しよせたり、とにかくどうもほっておけない状態になりつつある。この問題も十七日に考えたいと思う。

今年のSF研——質的向上への模索（キーン）

（明大SF研幹事長）

SF研の活動内容は、企画を考へると、どうも単なるアソビ事ではなさそうであるし、古い話だが一昨年の臨時総会においても、当会は「研究的」性格を持たせると決ま

年間予定概略

5月9日 読書会『夏への扉』 生田支部担当

23日 春期ハイキング

6月7日 (できれば)『テラ』読書会

13日 SFゼミ—今のところ、SF漫画、ヒューマン

27日 ショート・ショート批評会

7月 11日 読書会『未定』和泉地区担当

後半試験

8月 1日 夏期合宿 佐渡島(予定)

7日

9月 実質的に休み 東京地区集会有

10日 原書講読会 又は 読書会

後半聯合祭準備

31日 聯合祭

11月 3日

14日 読書会 又は 原書講読会

12月 12日 定例総会

18日 打上りコンパ

※ 5月末から6月にかけて和泉祭が、11月末に生田祭がそれぞれ行われる。担当は原則として各支部があること。

※ 6月に適当な日を選んでボーリング大会を行う予定有り。

※ 7月の読書会は試験日の関係で変更があるかもしれない。

※ 後期には、新入会員もかなり慣れてきていると認めるので

意見を取り入れたく、目をあけておくことにする。

とにかくどうも思っていること、問題も十七日に考えたいと思う。

今年のSF研——質的向上への模索(ハイキング)

(明大SF研幹事長)

* 読書会

一冊の本を各自読んでおきたら、ついで討論と質疑する。今年度の第一回は藤野のとあり夏への扉をとりわけ行う。本の選定、会の進行等、担当は各支部まわしむで、今回生田支部が行う。原則として自由参加。要するに読んだ人だけ来いという事。

* ショート・ショート批評会

この年夏期合宿兼祭壇の企画である批評会が良かったので再びやることにした。同一テーマで各自ショート・ショートを書き、読み合って討論し合うもの。提出原稿は雑誌石のたの誰の作品かわからないことになつておき、酷評も可である。従つて、この人のこの予のものは読まされた。何とというSF的発言もとび出すけれど、一応6月末に予定した。

* 原書講読会

原書による読書会だと思えばよい。テキストはまだ決まらなない。SFマがツンとのコラム、SFキヤスナーには毎回未訳の海外作品が紹介されるので、各自よく読んでおもしろさうなのがある。たら提案してほしい。

* SFゼミナール

あるテーマについて徹底的に研究する。7の夏期合宿ではSFと科学ということとせまておいた。今回は、今のところSFとSF漫画という提案があるだけである。

* 映画会

SF映画を鑑賞する会。期日は決まらなない、適当なものを上映せられたら、ぜひからつて行う。今年度第一回

はヨミクロの決死闘が予定されている。

＊合宿

春・夏年二回行われる。今年の夏期合宿については本誌7月号で特載する。予定では佐渡ヶ島。費用は一万円前後におさえるつもりでいる。

春の合宿は4月初め、年間企画作成を目的にニ泊三日ほどの期間で行われる。今年は5日から7日にかけて箱根遊羅園裏で行った。

夏の合宿はもう少し足をのびして一週間行わなくては行かない。昨年は山形の蔵王でハードスケジュールをこなした。詳しくは7月号。

＊大賞祭

和泉祭

当会は今年が初参加。内容等詳しい事は本誌文房でお伝えする。展示と、当会の宣伝がハイライトになる予定。

駱台祭

SF研が総力をあげてとりくむビッグ・プロジェクト。昨年はヨSFFと科学館のチームで担当にハードな展示を行った。又、米SFF雑誌の表紙のタイトル上映、海外イラスト展示などもやってみた。今年の企画は夏の合宿で練る。

生田祭

生田支部で悪ノリするおまつり。昨年は支部長以下全員フル回転し、三日連続コンパの費用をかき回した。——出店中心の学園祭で、とても活字にはできないような店を出したのだ。

◎春季ハイキングのお知らせ

O・B短信

▼川瀬保氏（文学部四五年卒・当会創設者）

テラが発行されてほしいのでしようか。しばらく音信不通です。

▼北島利幸氏（法学部四年卒・元幹事長）

勤務先が判明しました！！

日本技術貿易社・K営業部営業三課課長です！！
あまりの環境の変化にさすがに私はすっかりやりや
しを失って一気にだらしくもなりました。たさうでおま
けに、クラブでは、くだらばい事を言っていると馬鹿にされ
馬鹿なことを言っていると尊敬されましたが、会社ではく
らばいことを言っていると尊敬され、馬鹿なことを言くと馬
鹿にされるそうです。だから私は今年馬鹿にされて
いるのだそうです。北島節健在、いや磨まがかかっ
てきたようですか。

▼藤本佳彦氏（曲学部四年卒・元生田支部長）

住所

兵庫県西宮市武庫川町5-1-1 プリマム西案内

勤務先

大阪市淀川区大塚町中3-1-2 プリマム大阪工場

現在わかっているの財これだけだ。故郷が奈良なので
のどかなる地方に配属になったようです。生田の部屋で
は、素材管理課とかいうところへまわされて豚の世
話でもせられろん少やないか、ほんて鱈がササヤ

かたじけなくが……。
▼飯田一夫氏（工学部四年卒）

生田が部で思ひやりするおまつり。昨年はおまつりも下全員フル回転し、三日連続コンパの費用をかせいだ。——出店中心の学園祭で、とても活字にはできないようお店を出したのだよ。

◎春季ハイキングのお知らせ

期日 五月二十三日(日)

行先 高尾山から城山・相模湖へ(日帰り一般むき)

集合 新宿駅 午前三時

行程 新宿駅 中央線 高尾駅 バス 高尾山下 ケーブル 山上駅 15分 相

葉王院 0.5 km 高尾山頂大見晴台 1.5 km 城山 2.4 km 相

模川原つり橋 2 km タム堤防 1 km 相模湖 中央線 新宿

費用 約六百円 傘持持参

城山から見おろす相模湖の美しい眺めを御賞し、勉強疲れをイヤしましょう。

※ 雨天中止、小雨多分中止 曇天決行

MEMO

現在おかしなところの状況をおたけです。お病が卒業生の方で、お病の方の配属に当たったようです。生田の部屋で、お病の方の管理課とかいうところへまわされ、お病の方の世話でもせせられ、お病の方の世話もか、お病の方の世話もかサヤ

かれていきますが……。
飯田一夫氏(工学部四六年卒)

勤務先

千代田区神田佐久間町1-14 第2東ビル

株式会社 東和エレクトロニクス 技術部

システム技術課

特別連絡はありませんが、成績優秀、真面目な人ですから別に心配はないでしょう。いや、意外と、ちよいと抜け出して映画見はなんぞ……。

他の先輩諸兄からは何の連絡もありません。O・B会の結成とともに情報ははいるでしょう。その時又紹介します。

TERRA
NO. 5

明大SF研が総力をあげておくる
SF専門誌

第5号いよいよ刊行

刊行が遅れたため、既に卒業してしまっ先輩の作品が載っているのが本号の特徴です。

定価150円

『夏への扉』 R・A・ハインライン

今回は現代SF界の大御所、ハインラインの登場。その代表作、『夏への扉』です。もっともハインラインは、ニューウェーブ派の人々には総スカンをくらっていませんが、そのストーリー展開、小説の構成力はやはりタダモノではありません。(もっともそういつたこと加減スカンの原因なのですか)

『夏への扉』は最早『古典』には入らうとしています。古き良き時代の、セクス・オヴ・ワンダーに満ちた舞臺件に楽しめる傑作、というわけです。下にそのあらすじを書いとおきました。もちろんこれは、細部まで思い出しただけくためのものご読み代わりにはなりません。読んでみさっぱりおもしろくはないのはまじめのヘタさかげんもさることながら、とにかくダイジェストで楽しめるものではないのです(自己弁護も兼ねて)。

- 夏への扉におけるSFのおもしろさ、たのしさを
 - ハインラインについて
 - N・Wとの対比
 - ロボットについて
- 担当 石川(進行) 向後(解説)

※ あらすじ

主人公、D・B・ディヴスは第一級の技術者である。彼はその天才的頭脳を駆使して文化女中器ハイムトガレなる家事専門のロボットを発明し、親友のマイルズと会社を設立する。事業は順調に進んだが秘書として雇ったベルという女がたいへん好くわせたもので、彼女とマイルズの奸計により、彼は開発中の、文化女中器より秀れた万能器をとりあげられ、会社を危ねられる。更に彼は冷凍睡眠コールドスリープの床につかされ、一九七〇年から二〇〇一年の世界へと送られてしまう。ベルとマイルズに復讐するつもりでいたディヴスはそこで落ちぶれ果てたベルを見、マイルズの死を知る。又、彼はそこで自分が発明したことになつてこの新型器を認めたことを見し、いつか過去にありて彼がそれを発明したことを知る。彼は一計を講じ、未だ実験段階であり軍の秘密であるタイムマシンに一人か八かの賭けをし、無事一九七〇年に戻ることに成功する。彼は製器器を作り、ベルとマイルズの手から万能器を奪い返すことに成功する。更に愛しのフレドリカへマイルズの遺娘と会い、二〇〇二年での再会を約して再びコールド・スリープにつく。(この時フレドリカはまだ十四、彼女は二〇才に達してからコールドスリープにつく)二〇〇一年で彼は年齢的につり合いのとれたフレドリカと再会し結婚する。

ここには書かなかったがこの小説では猫が重要なキャラクターとして登場する。猫好きの川瀬さん(O・B)が狂喜したと伝えられている。

* 会員名簿 *

〔駿河台〕

井沢誠一郎 商・4

横山正紀 商・4

坂井紀子 文・4

坂井百合子 文・3

高野 司法・3

竹田一良 法・3

山田 護 法・3

沼間一美 法・3

斎藤幸子 能法・1

〔生田〕

小島義一郎 工・4

庄司修一郎 工・3

向後基 男 工・3

竹波隆 平 農・3

石川正 興 工・2

友崎 雄 工・2

久野 健 二 工・1

李 護 明 工・1

担当 石川（進行） 向後（解説）

ここに書かなかったかこの小説では猫が重要キャラクターとして登場する。猫好きの川瀬さん（O.B.）が狂喜したと伝えられている。

宮腰 正 工・1

深谷 栄 工・1

〔和泉〕

小沢賢 仁 法・2

妹尾俊 一 文・2

宮本昭 男 政経・2

柏谷雅 一 文・2

本多良 治 政経・2

後藤誠 一 文・1

角田裕 一 商・1

藤原延 久 政経・1

MSFC

MEIJI UNIVERSITY SCIENCE FICTION CLUB